

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第1週 (1/4-1/10) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		1週	53週	52週	51週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	16	18	18
	眼科	4	5	4	5
	インフルエンザ*	27	26	27	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	1/4-1/10	12/28-1/3	12/21-12/27	12/14-12/20	12/28-1/3	
			1週	53週	52週	51週	53週	
小 児 科	RSウイルス感染症	○	11 0.61	4 0.25	16 0.89	19 1.06	54 0.41	
	咽頭結膜熱		3 0.17	2 0.13	4 0.22	11 0.61	50 0.38	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		33 1.83	12 0.75	42 2.33	53 2.94	126 0.95	
	感染性胃腸炎		164 9.11	66 4.13	217 12.06	233 12.94	467 3.51	
	水痘		26 1.44	6 0.38	13 0.72	26 1.44	53 0.40	
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.11	5 0.04	
	伝染性紅斑	○	19 1.06	3 0.19	16 0.89	14 0.78	20 0.15	
	突発性発しん		14 0.78	8 0.50	8 0.44	9 0.50	21 0.16	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.01	
	ヘルパンギーナ		2 0.11	0 0.00	1 0.06	0 0.00	2 0.02	
	流行性耳下腺炎		13 0.72	11 0.69	11 0.61	17 0.94	76 0.57	
インフル	インフルエンザ*（高病原性鳥インフル エンザを除く）	○	39 1.44	0 0.00	4 0.15	2 0.07	147 0.70	
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.20	0 0.00	
	流行性角結膜炎		4 1.00	0 0.00	2 0.50	4 0.80	2 0.06	
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	1 1.00	0 0.00	2 2.00	0 0.00	
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	1 1.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査等	結核	男性	80歳代	病原体の検出
結核	男性	60歳代	病原体の検出	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	男性	70歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・第1週は、結核5件(5)、急性脳炎2件(2)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第1週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<伝染性紅斑> 前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べると最多。

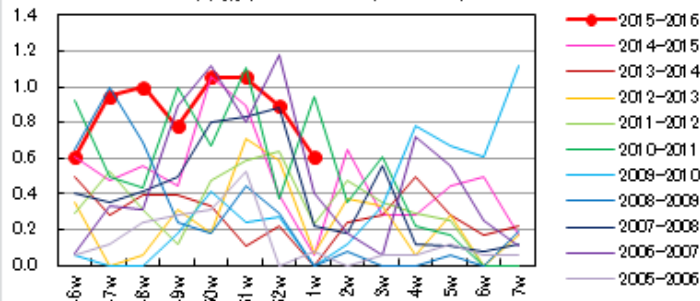
<インフルエンザ> 前週より増加し1.44となり、流行開始の目安とされる1.0を上回った。過去10年の同時期と比べると少ない。

■ トピック ■

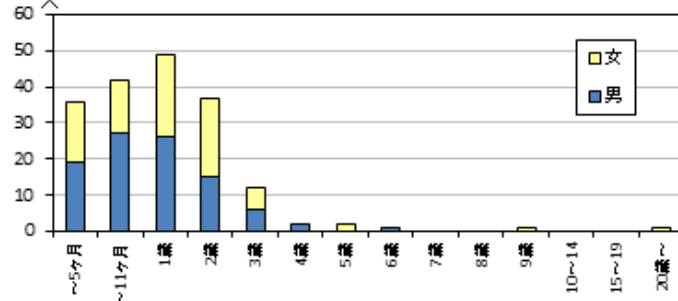
<RSウイルス感染症>

全国レベルの第53週は、都道府県別では、山口県、愛媛県、和歌山県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2016年第1週は0.61となり、過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は、緑区及び美浜区(共に1.0/定点)で最多で、緑区で6か月未満、美浜区で6か月～1歳で多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第1週までの累積報告数(n=183)によると、性別では男性が52.5%(96名)、女性が47.5%(87名)で、年齢階級別では1歳(26.8%:49名)、6～11か月(23.0%:42名)、2歳(20.2%:37名)の順に多くなっています。

各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2004-2016年 46w-7w)



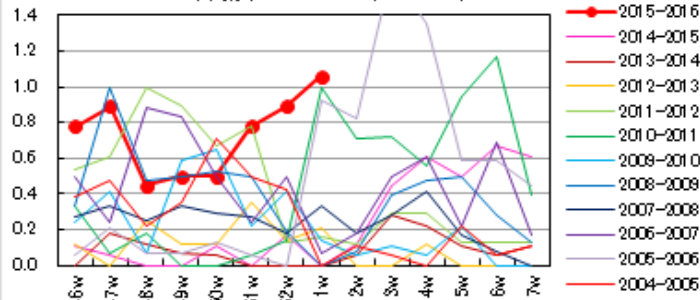
定点からの報告数
2015年36w-2016年1w n=183



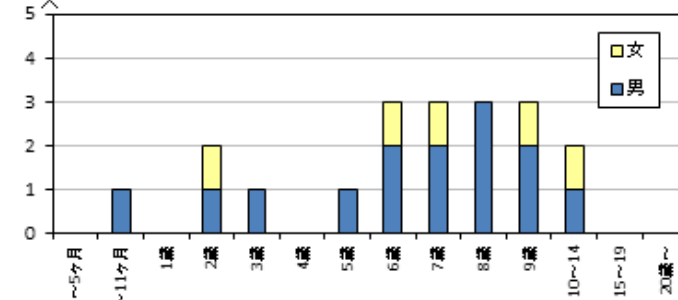
<伝染性紅斑>

全国レベルの第53週は、都道府県別では、福井県、山形県、秋田県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2016年第1週は前週から増加し1.06となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、稲毛区(3.33/定点)で流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多で、同区の8歳で最も多く発生報告がありました。2016年第1週の報告数(n=19)によると、性別では男性が73.7%(14名)、女性が26.3%(5名)で、年齢階級別では6歳～9歳が共に15.8%(3名)で多くなっています。

各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2004-2016年 46w-7w)



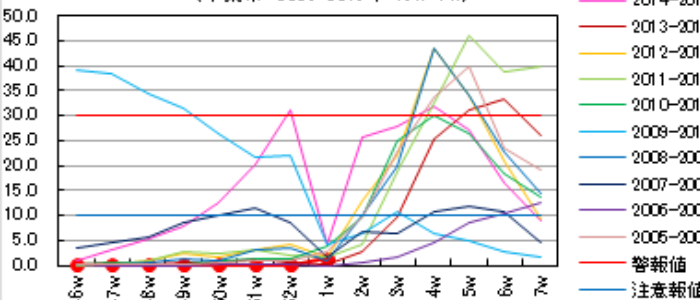
定点からの報告数
2016年1w n=19



<インフルエンザ>

全国レベルの第53週は、都道府県別では、秋田県、沖縄県、北海道の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2016年第1週は前週から増加し1.44となり、流行開始の目安とされる1.0を上回りました。区別の発生状況は、中央区(2.8/定点)で最多で、同区の9歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から2016年第1週までの累積報告数(n=74)によると、性別では男性が52.7%(39名)、女性が47.3%(35名)で、年代当たりの年齢階級別では6歳及び9歳(共に8.1%:6名)、2歳、4歳及び5歳(共に5.4%:4名)の順に多くなっています。

各シーズンの定点当たりの報告数
(千葉市:2005-2016年 46w-7w)



定点からの報告数
2015年36w-2016年1w n=74

